

広島県中小企業団体中央会 2015年11月分情報連絡一覧表

食料品

●食料品

中国醤油醸造協同組合

11月の出荷量は前月比7.9%減少、前年同月比6.0%増加、売上高は前月比10.7%減少、前年同月比4.7%増加となった。

木材・木製品

●木材・木製品

福山木材協同組合

例年1,2月は落ち込むが、来年は良くなりそうである。

広島県木材協同組合連合会

平成27年10月の全国新設住宅着工数は77,153戸で、前年同月比では2.5%減少、季節調整済年率換算値では86.2万戸(前月比4.3%減少)となった。利用関係別では、持家は24,830戸で前年同月比2.4%増加、貸家は32,757戸で前年同月比2.6%減少、分譲住宅は18,838戸で前年同月比9.5%減少となった。なお、木造住宅の着工数は43,954戸で、前年同月比2.2%増加となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で8ヶ月振りの減少となっており、前年同月に分譲マンションの大規模物件の着工が多くあったことが要因である。借家の着工については6ヶ月ぶりの減少となったが依然3万戸を越える水準で推移しており堅調に維持している。一方、昨年4月の消費税増税前の駆け込み需要の反動減の大きかった持家は6ヶ月連続の増加となるなど、全体として持ち直しの傾向が続いており、引き続き今後の動向をしっかりと注視する必要がある。

こうした全国の動きに対し、広島県内の着工数は1,593戸で前年同月比3.2%の増加となった。このうち、持家が478戸で前年同月比1.4%の減少、貸家は502戸で前年同月比25.7%の減少、分譲は603戸で前年同月比74.8%の増加となった。地域別では、広島市は着工戸数795戸で36.6%増加、三原市は80戸で247.8%増加の一方で、福山市は着工戸数222戸で41.6%減少、尾道市は40戸で57.0%減少、東広島市は92戸で22.7%減少となるなど、地域間でばらつきがあり、会員の一部には受注増で業況が好転しているとの声もあるが、全体的には景況回復は十分とは言えず、経営状況は依然厳しいとの声も多く、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

化学・ゴム

●工業用ゴム製品

中国ゴム工業協同組合

円安の進行にもかかわらず、国内景況感の改善は感じられず、特に自動車業界においては、自動車メーカーの好決算に対し部品メーカーは国内生産台数減、プライスダウン要請や原材料高、人件費の高騰を受け、大変厳しい状況にある。昨今の円安効果には疑問を感じている。今後アメリカの金利の引き上げが実施されるとさらなる円安状況を招き、国内物価上昇、国債の信認低下が起きる可能性も考えられ、安心して国内で雇用拡大、投資拡大をする雰囲気ではない。さらに、最近の中国における株安から始まる中国経済のバブル崩壊の懸念が現実味をおびてきており、景況の先行き感は誠に不透明である。

●プラスチック製品製造業

広島県プラスチック工業会

今月は前月に比べて全体的に売上は横ばい又は若干上昇傾向にある。今月、予定通り米国金利が上がることになった場合、更なる円安が危惧される。

窯業・土石製品

●窯業・土石製品

広島地区生コンクリート協同組合

出荷状況(24工場)

27年11月 3,147 m³ (対前年 3.9%減少)

27年10月 3,280 m³

26年11月 3,276 m³

鉄鋼・金属製品

●鉄鋼業

軋鉄鋼協同組合連合会

年度当初と比べ景況感が悪化しているとの声を耳にすることが多くなった。団地内においても様々な金属製品を製造しているため、一概に原因は追及しにくい。

大企業と中小零細企業の労働者の格差是正を目に見える形で行ってほしい。

一般機器

●一般機械器具

協同組合三菱広島協力会

広島県西部地区において、航空機関係のみ高操業である。タービン・コンプレッサ、製鉄機械、ゴムタイヤ機械等は低操業の状況にある。それに伴い、協力会社各社も前月通りの操業で横ばいの状況である。

広島県東部機械金属工業協同組合

今月の売上は、前月比 0.5%増加、前年同月比 5%増加となった。

電気機器

●電気機械器具

(電気) 広島県東部機械金属工業協同組合

今月の売上は、前月比、前年同月比共に変化なしとなった。国内物件は下降気味であるが、輸出物件は増加している。

最低賃金を1,000円にとの議論がなされているが、実現されると電機業界の2次下請けは倒産してしまう。賃金の高騰が続いているので、収益や人員確保に大きな問題がでてくる。人材派遣会社の規制が必要だと思う。人材確保の課題が鮮明である。賃金の問題は深刻である。

マイナンバーの運用に問題は出ないのであろうか。混乱が起きることを危惧している。

輸送用機器

●輸送用機械器具(自動車)

東友会協同組合

11月の国内自動車販売台数は全需が389千台、前年同月比6.6%減少と11ヶ月連続の前年割れとなった。

登録車は前年比0.3%増加と2ヶ月連続の前年超え、軽自動車は15.8%減少と11ヶ月連続の前年割れとなった。マツダ車は14.3%減少と2ヶ月連続の前年割れとなった。

アメリカの10月の全需は1,456千台で前年同月比13.6%増加と2ヶ月連続の前年超え。マ

ツダ車も同 35.4%増加と 2 ヶ月連続の前年超えとなった。

欧州の 10 月の全需は 1,296 千台で、前年同月比 4.8%減少と 5 ヶ月振りの前年割れとなった。マツダ車は同 18.3%増加と 5 ヶ月連続の前年超えとなった。

中国の 10 月の全需は 2,168 千台で、前年同月比 9.1%増加。マツダ車も 1.5%増加と 9 ヶ月連続の前年超えとなった。

上記各地域の状況下、マツダ車の 10 月の海外販売合計台数は 108 千台、前年同月比 21.0%増加で 28 ヶ月連続の前年超えとなった。

マツダの 10 月の輸出動向については、輸出台数は全体で前年比 13.7%増加と 2 ヶ月連続の前年超えとなった。

マツダの 10 月の国内生産台数は、前年同月比 13.0%増加と 5 ヶ月連続の前年超えとなった。

●輸送用機械器具（造船）

（社）中国小型船舶工業会

中小造船業については、前月と大きな変化はない。

中国地区造船協議会

県内 2,500 総トン以上の平成 27 年 11 月の船舶建造許可実績は 3 隻 60,900 総トン（前月 6 隻 272,850 総トン、前年同月 6 隻 304,500 総トン）であった。なお、3 隻のうち 1 隻が貨物船、2 隻が油槽船で全て輸出船となっている。

●輸送用機械器具（造船関連団地）

呉鉄工業団地協同組合

原材料の高騰により収益性が悪化している。

その他

●家具・装備品

広島家具工業協同組合

若干持ち直してきている。他地域のメーカーも徐々に前年実績を上回ってきているようである。

来年 5 月、家具見本市を予定していたが、出品企業の確保が難しいため一旦開催を見送ることとなった。次回開催に向け企画の再検討をしているところである。

卸売業

●卸売業（総合）

協同組合広島総合卸センター

景況感は横ばいである。暖冬により冬物品が出遅れている。

「資材関連」においては、公共工事は件数・金額ともに前年割れ、新設住宅着工件数も減少しており、資材卸業者は再度競争が激化、採算性の低下が懸念される。ただし、LED 照明の需要が加速する予想や、新エネルギー、再生エネルギー分野の需要も増加が見込まれている。

「食品」においては、11 月の売上は前年同月比横ばい、採算面は低下している。食品卸から多角化に成功した業者は本業より副業の方が好調で、食品の低収益をカバーしている。

「繊維」においては、11 月は暖冬の影響により冬物衣料は低調に推移した。勝ち組不在、倒産増加等繊維業界は依然厳しい。

「雑貨」においては、生活雑貨については、概ね前年並みで推移している。

協同組合福山卸センター

暖冬の影響で作業服、婦人服の売上が低調で、在庫が増加している。

●卸売業（電設資材）

広島県電設資材卸業協同組合

第3四半期に入り、予定通り官庁案件の公告・入札が始まった。民間物件も好調で、資材の動きは好調であると思われる。しかし官民の発注が重なれば、人手不足が気になるところである。

●卸売業（家具）

リビズ株式会社

暖冬の影響からか、冬物家具の販売が低調であった。

●卸売業（畳・敷物）

広島県藁製品商業協同組合

国内では11月～12月にかけて「い草」の植付けの最盛期である。したがって製品は市場に多く出回っていない。長いものを中心に高値で取引されている。一方下ものは入用買い程度で相場はまずまずの状態である。

中国産表は、古物「い草」を中心に製織している。新草での製織は一部で入用買い程度の製織状態である。今後の輸入業者の動向で相場は変動するものと推定している。輸入業者筋によると、在庫の調整をしながらの入用買いで、今は古物が多く輸入されているようである。また、今年の植付けは中国国内の諸事情により、来年度の収穫量は予測不可能な状況であり、価格調整のためか、一部では植付け苗を焼却したとの情報もある。

小売業

●各種商品小売業

協同組合三次ショッピングセンター

11月15日、三次プレミアム付き商品券(予算額6億円)が販売された。昨年11月にも販売され、今回の売上高は対前年比1%減少と伸び悩んだが、未だ商品券の回収が少ないことから、12月にまとめて買いものをされるのではないかと予想される。また今月は、競合店スーパーの改装オープンにより、若干売上が落ち込んだことも要因ではないかと思われる。

チャーリップチェーン商業協同組合

11月の季節指数は年間で最も低く、売上は前月比減少となった。11月の平均気温が例年に比べ3度程度高かったことが、売れ行きに大きく影響したようである。また、雨が多かったことも来店客数減少の要因となった。いずれにしても前月に比べ売上、客数ともに減少した。

●家庭用電気機械器具小売

広島県電器商業組合

11月度の販売実績は前年同月比11.4%減少となった。商品別では、薄型テレビ前年同月比15.1%減少、BDレコーダー同15.4%減少、音響・車載機器同22.3%減少、冷蔵庫同1.2%増加、洗濯機同15.3%減少、エアコン同7.6%減少、エコキュート同11.4%減少、IHクッキングヒーター同3.4%増加となった。

商店街

●商店街（各種商品小売業）

呉本通商店街振興組合

プレミアム商品券について、当商店街では若干の恩恵を受けただけであり、大きな影響はなかった。中小店専用券(500円券)の割合を増やして欲しいとの要望があった。消費者にしてみると、金銭に見えないため、無駄な買いものをしてしまったと聞くこともある。また、中小店専用券とその他の券が使用できる店舗の判別が手間であったとの声もある。来年以降も予算がつくようなら、券の半分は地元の中小店で半分は広島県全域で使えるようにすれば、

利便性がよくなるのではないかと思う。

サービス業

●自動車整備業

広島市自動車整備団地協同組合

車検台数は前月比 0.7%減少、前年同月比 0.3%増加。車検場収入は前月比 0.5%増加、前年同月比 1.1%増加。重量税・登録印紙の売上は前月比 0.9%減少、前年同月比 2.5%の増加となっている。

●広告業

広島県広告美術協同組合連合会

看板の安全性に注目が集まり注視している状況にあり、低調に推移している。

●警備業

広島県警備業協同組合

人材不足である。労働環境の整備が必要。

●情報サービス

(社) 広島県情報産業協会

日本の財政再建と社会保障充実のための施策を積極的に進めて欲しい。

建設業

●工事業

広島県室内装飾事業協同組合

11月の売上については、前月比 7%減少、前年同月比 9%増加となった。

前月比で見るとカーテン工事が 21%減少、敷物工事は 29%減少、壁装工事は 10%増加と壁装工事以外は大幅な減少となった。

前年同月比では、カーテン工事は 29%増加、壁装工事は変化なし、敷物工事は 31%減少と大幅に減少となった。

工事物件については、前年累計で 6%増加と微増であるが、壁装工事が 27%増加となった。内装工事全体では前月比は微減であったが、前年同月比、前年累計共に微増となっている。依然企業間格差は大きくなっている。

福山地区電気工事業協同組合

11月における工事受注件数は、前月比 6%減少、前年同月比 25%減少となった。

神辺建設業協同組合

官公庁を中心に、本年度末工期の小型工事の発注が増加しているが、労働力不足を理由に、受注を控えるケースも見受けられる。

運輸業

●道路貨物運送業

広島輸送ターミナル協同組合

軽油価格が若干値上がりしているため、今後も動向を注視していく必要がある。

ドライバー不足が続いている。

広島県ロジネット協同組合

11月の荷動きは前月比、前年同月比共に増加した。12月についても同様にかんがりの物量が予想されており、運送会社各社はすでに12月の手配に追われている。

一方で、労働時間等のコンプライアンスから、長距離輸送が厳しくなっており、地場・中距離輸送にシフトしている運送会社も多く、長距離車両の確保が課題となっている。来月はさらに車両確保に苦慮することが予想される。

軽油価格は5円/L程度の値上げとなり、90円～94円で推移した。軽油価格は、一時期に比べるとここ数ヶ月は落ち着いており、営業利益の改善効果を期待していたが、ドライバー不足が引き続き深刻であるため軽油価格が下落しても営業利益の改善効果が得られない事業者も多いのが現状である。

松永地区トラック事業協同組合

毎年11月下旬になると柑橘類の出荷が本格的に始まり、輸送車両がそちらにとられ、通常の貨物があっても車両が不足するという現象が発生するが、今年は暖冬の影響で11月にはそのような現象が見られなかった。

軽油の単価は今年になり毎月3円/L程度下がってきているが、11月は逆に3円上がっており、運賃は上がっていないため収益状況が軽油の単価により左右される状況は全く改善されていない。

人材不足の改善の兆しはなく、ドライバー不足により車両の稼働率がかなり低下している。人材派遣にドライバーを頼んでも現在は登録人員が少なく回してもらえない状態である。

●水運業

全国内航タンカー海運組合中国支部

船員の高年齢化が進み、船員不足である。若年船員が育たない。運賃、用船料の改善が見られない。

その他

●不動産業

広島県不動産評価システム協同組合

前月比については、10月に公的評価報酬の入金があったため、11月はその影響もあり、売上高、収益状況がやや悪化している。前年同月比については特に変化はない。

不動産動向についても、住宅・マンション販売共にやや鈍化している。